

学会記事

第8回徳島医学会賞受賞者紹介

徳島医学会賞は、医学研究の発展と奨励を目的として、第217回徳島医学会平成10年度夏期総会（平成10年8月31日、阿波観光ホテル）から設けられることとなりました。年2回（夏期及び冬期）の総会での応募演題の中から最も優れた研究に対して各期ごとに大学関係者から1名、医師会関係者から1名に贈られます。

第8回徳島医学会賞は次の2名の方々の受賞が決定いたしました。両名の方々には第225回徳島医学会学術集会（夏期）授与式にて賞状並びに副賞（賞金10万円及び記念品）が授与されます。

尚、受賞論文は本号22ページ～39ページに掲載しております。

（大学関係者）



受賞者氏名：清水一郎
生年月日：昭和27年5月7日
出身大学：愛媛大学医学部
所属：徳島大学医学部病態
予防医学講座臓器病
態治療医学分野
研究内容：C型肝炎ウイルス持
続感染患者の肝線維
化における女性ホル
モンの役割

受賞にあたり：

もっと若い研究者が受賞対象者としてふさわしいのではといささか躊躇する反面、私たちのこれまでの研究に対する高い評価として心から受賞を喜びたい。

C型肝炎ウイルスの遺伝子変異研究が全世界を席捲していた頃、私たちは肝線維化機序の研究を開始した。やがて、ウイルス慢性肝疾患における明らかな性差の存在から女性ホルモンに大いなる興味を抱くようになる。肝線維化と女性ホルモンに関する最初の研究発表は1995年10月、高松における日本内科学会地方会であった。1996年11月、米国肝臓学会（シカゴ）で発表し、翌1997年4月には日本肝臓学会総会（名古屋）のシンポジウム発表となった。しかし、肝腎の論文がなかなか受理されない。

唯一、日本醫事新報からの依頼原稿で「女性ホルモンの肝線維化抑制作用」（1997年11月）と題する小文が最初の活字となった。ようやく1998年、女性ホルモンの肝化学発癌抑制作用に関する論文がGutに受理され、続いて肝線維化抑制作用に関する論文もGutとHepatologyに受理されることとなった。

性差存在の疑問に対する解答の糸口の、その一つの端緒を見出したに過ぎない。今後とも無心に突き進みたいと願っている。

（医師会関係者）



受賞者氏名：細川 忍
生年月日：昭和42年12月12日
出身大学：徳島大学医学部
所属：徳島赤十字病院
循環器科
研究内容：徳島県における急性
心筋梗塞症に対する
治療の現状

受賞にあたり：

この度は第8回徳島医学会賞に選出していただき有り難うございます。私は平成4年から徳島大学医学部第2内科に入局し、平成8年から徳島赤十字病院循環器科に勤務しております。この徳島AMI（Acute Myocardial Infarction：急性心筋梗塞症）研究会は徳島県内16施設の先生に協力して頂き、発表することができました。突然死、院内死亡を少しでも減少できればと思い、今後の研究に役立てたいと考えています。またできるだけ積極的に早期再灌流療法を目指し、地域医療に貢献したいと考えています。